



西本願寺 執行長
武田 昭英

川面美術研究所 所長
荒木 かおり



令和によみがえる
日暮門
ひぐらしもん
国宝

唐門
からもん

川面美術研究所

明治5年創業。文化財保存修復や絵画・建造物彩色、社寺建築堂内荘厳、舞台美術製作を専門にして、これまで本願寺の御影堂平成大修復、飛雲閣三十六歌仙杉戸絵復原模写、書院虎之間障壁画復原模写等を手掛けた。



文化財修復工事
の詳細は
こちらから →



約40年ぶりとなる国宝・唐門の大修復工事が終わりました。檜皮葺き屋根の葺き替え、彫刻や鍔金具の修理、漆の塗り直し、そして色鮮やかな彩色がほどこされた唐門を連日多くの参拝者がご覧になっておられます。そこで、今回は彩色と彫刻修理を担当した川面美術研究所の荒木かおり所長をお迎えしてお話を伺いました。

創建当時に思いを馳せて

武田 おかげさまで立派に唐門の修復が終わりしました。修復に際して、特に注意していただいたことを教えてください。

荒木 まず、唐門の建築当初はどのような姿を目指していたのか、何を表現したくて造ったのかに思いを馳せて修復をしました。ただ単に空想するのではなく、痕跡や表現を見出して再現することが難しいところであり、楽しいところでもあります。

武田 本願寺の唐門の魅力は荒木さんはどう感じておられますか。

荒木 本願寺の唐門は柱、扉もすべて漆塗りです。そしてその扉の上に彫刻がたくさんついており、彩色と漆で埋め尽くされているのが特徴です。西の本願寺唐門、東の日光東照宮

陽明門と比較されますね。しかし、

日光は関西とは異なるテイストの彩色です。関西で扉の下から上部まで彫刻で埋め尽くしたものは本願寺唐門が唯一になるのではないのでしょうか。また、彫刻の内容が龍や獅子、花鳥に加え、中国故事にちなんだものが大きな面積を占めていることも特徴です。本願寺では白書院、紫明の間に帝鑑図の障壁画があり、御影堂には二十四孝の墓股があります。いずれも中国説話に題材をとったもので、建築時の宗主のご意向が表れているのではないかと感じております。

武田 修復にあたって彩色調査をされたそうですが、具体的な内容を教えてください。

荒木 昭和50年代に私の父が行った修理時の調査資料がたくさんあります。



したので、調査はそれほど難しくはなかったですが、今回は、彫刻を取り外して復元見取図を描くことが出来た。その分詳細なところまで覗き込むことができたので、前回の調査では描き切れていないところまで見取図に描き込めました。

武田 今までの中でも、特に丁寧に修復していただけたんですね。

荒木 2年半かかりましたが、前回に修復ができていなかった彫刻の修復ができました。細かな彫刻が多いので漆で接着したり、欠けているところは補作したり、かなり時間をかけて行いました。その後、彩色調査に基づいた見取図を描き、監督者の了解をいただいてからいよいよ本番の彩色にかかっていきます。

武田 全部原図（復元見取図）を描いておられるのですか。

荒木 そうなんです。次回の修復で誰が見ても彩色ができる見取図を作りましたので、次の修復の時は助かるのではないかと思います。私も前回の修復は20代で参加していて、今回が2回目です。当時のことを思い



出しながら作業しましたが、今回の修復にも20代の技能者が携わっているの、私の経験も伝えています。

次世代へ繋ぐ修復に込めたメッセージ

武田 彩色の顔料はどんなものを使っていたのですか。

荒木 岩絵具は鉱石が原料で、粉の状態にして使います。同じ鉱石でも粒子が細かいと色が淡く、粗いと濃い色（写真下）になります。青はアズライト、緑はマラカイトという鉱石、ベースに塗る胡粉という白色顔料はイタボ牡蠣の貝殻を粉碎した顔料です。

武田 時間の経過とともに顔料は変色してしまうのですか。

荒木 そうですね。天然顔料は変色はしますが、穏やかに変色します。



酸化しているのかで色合いは落ち着き渋くなっています。合成顔料は白っぽく変色していきます。また鎌倉朱という色は、水銀と硫黄の化合物です。水銀は時間が経てば黒く変色します。前回の修理は鎌倉朱を使用したため、赤色の部分が黒く変色してしまいましたが、それを回避するために、今回は紫外線が特に当たる唐門の下の方の赤は、耐光性の高い合成した赤色を使用しました。屋根内側のあまり日が当たらないところには、将来分析をしてもわかるように鎌倉朱を使用しました。これは次世代へのメッセージだと思っています。



武田 最後に、荒木さんにとって文化財保存の魅力を教えてください。

荒木 当時の職人の息づかいを感じられることが魅力の一つですね。例えば一般の参拝者から見えない部分の彩色は、手を抜こうと思えばいくらでも抜くことができます。でも、きちんと細部まで修復することが全体の雰囲気を作りあげていくと考えています。「これが令和の修復です」と、時空を超えて、次世代の技能者に私たちの仕事を見てほしいと思っています。

唐門の故事

国宝唐門には彩色豊かな彫刻が数多くあります。虎や唐獅子などの動物の他、空想上の動物の麒麟などがあります。左右の扉受けには南北にそれぞれに中国古代の故事が彫刻されています。北側の「許由と巢父」の故事を紹介します。



牛を引いてかえる巢父



潁川で耳を洗う許由

許由と巢父

中国において理想の帝の一人とされる堯は、有能で人徳に優れた許由に帝の位を譲ろうと申し出た。ところが清廉潔白な許由は、この申し出を断り、「世俗の汚れた話を聞いた」として、人里離れた清らかな潁川の滝で耳を洗っていた。そこに清廉で世に知られた巢父が牛を引いてやって来て許由に出会った。そこで、許由から耳を洗っている理由を聞いた巢父は、「そのような汚れた水を牛に飲ませるわけにはいかない」と言って引き返していったという。

携行本尊（絵像）

いつも

阿弥陀様がご一緒

阿弥陀様をいつでも、どんな時でも一緒にいてくださると思われよう携行本尊の交付が始まりました。常に身につけて阿弥陀様とご一緒の生活をいたしましょう。

携行本尊は、西本願寺の龍虎殿または大谷本廟で直接お申し込みできるほかホームページからお申し込みいただけます。

携行用の袋や専用ケースは売店等で販売しています。お問合せ先「参拝教化部075-371-5181」



縦90mm×横55mm×厚み2mm
漆ブラック調パイオプラスチック

冥加金 10,000円

※荷造送料別途1,000円必要(4幅まで)
※1度に5幅以上送付の場合は荷造送料無料(令和4年3月31日まで)

携行本尊紹介動画とWEB申し込みはホームページ

お西さん 検索



大谷本廟 information

参拝者の声

毎月命日に参拝していますが、事前予約ができることで待つことなく参拝できました。

用事で参拝ができなかった時も、おつとめ様子を写真で送っていただき安心しました。

四季のおつとめ受付中
「四季のおつとめ」は大谷本廟 無量寿堂で年4回日時をご指定いただくお勤めです。
●ご参拝時にお待たせせずご案内いたします。
●当日のご参拝が難しい場合も大谷本廟の僧侶がご指定日に読経・献花焼香いたします。詳しくは大谷本廟ホームページをご覧ください。



四季のおつとめ参拝カード



スマホ版



大谷本廟 検索

このたび、大谷本廟ホームページを全面リニューアルいたしました。

今回のリニューアルでは、皆様が必要な情報がわかりやすくとどろけるように、デザインやページ構成を見直しました。また、スマートフォンやタブレットでの表示にも対応しよりわかりやすく閲覧できるようになりました。

京阪バス「西本願寺前」停留所が新設されました

京都駅～本願寺～大谷本廟をつなぐ京阪バスの路線バスに「西本願寺前」停留所が新設されました。

場所は、阿弥陀堂門と御影堂門の間(北行)と総門横(南行)です。

停留所新設に伴い、聞法会館前の「西本願寺」停留所は、名称を「西本願寺(聞法会館前)」に変更します。

ご参拝がグッと便利になります！



新発売

西本願寺 小豆粥 <レトルト>

1/7
販売開始!

親鸞聖人がお好きであったとされる小豆粥
レトルトの「西本願寺 小豆粥」が販売開始予定!
ちょうどいい塩加減と生姜の風味で身体の中から温まります

西本願寺
執行長カレーも
絶賛発売中!!



『西本願寺 小豆粥<レトルト>500円(税込)』下記の売店で販売しています。

西本願寺ショップ ・伝道本部1階売店「法輪」 ・聞法会館1階売店

大谷本廟ショップ ・本廟会館ロビー売店

※その他、門前の開明社店舗や京都市内のホテル売店等で販売いたします。

(販売元)株式会社 茫 TEL.075-351-1137

和食・食事処 がんこ

西本願寺の宿
聞法会館地下1階お食事処
「和食・食事処 がんこ
西本願寺別邸」

心地よい和の空間とおもてなしをご提供

営業時間:

朝食/7:00~9:00

昼食/11:00~14:00

(L.O.13:30)

夕食/17:00~20:30

(L.O.20:00)

TEL:075-746-5152



クーポン
本紙ご持参で、ソフトドリンク
1ドリンクサービス
(お食事の方に限りです)
有効期限 2022年5月31日まで

菜の花

大谷本廟(西大谷)
本廟会館地下1階お食事処
「菜の花」

ご参拝・観光の昼食に生ゆばを
使った料理をお楽しみください

営業時間:

10:00~14:00

(お食事は11:00~)

TEL:075-551-4500



クーポン
本紙ご持参で、ソフトドリンク
1ドリンクサービス
(お食事の方に限りです)
有効期限 2022年5月31日まで

法要行事

御正忌報恩講法要

2022(令和4)年1月9日(日)より16日(日)まで、
御正忌報恩講法要が修行されます。

このたびは新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、法要の参拝については参拝席数を制限します。また、御影堂の他、阿弥陀堂などでスクリーン及びモニターを設置し、法要の様子を中継いたします。

インターネット(<https://www.hongwanji.kyoto/>)
配信も行いますのでぜひご視聴ください。

ご参拝の留意事項

- ①健康上不安のある方は、ご参拝をご遠慮ください。
- ②マスクの着用、消毒液による消毒等、感染症予防対策の徹底にご協力いただきます。
- ③＜法要・お斎＞の会場は扉を開放し随時換気を行いますので、充分な防寒対策をしたうえでご参拝ください。
- ④新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、参拝受け入れを中止する場合があります。

【問い合わせ】 参拝教化部(龍虎殿)
＜TEL:075-371-5181(代) FAX:075-371-7601＞

お伝統の
お斎
料理

本願寺では、御正忌報恩講法要にあわせて、通常非公開の国宝書院(鴻之間)で、伝統の精進料理である「お斎」を、召しあがっていただくことができます。

1月10日~15日まで、日中法要終了後にご接待をおこないますので、ご参拝の折にぜひご賞味ください。

※詳細はお問い合わせください。

申込方法

※全席椅子席になっております。
なお、配膳配置等例年とは異なります。ご了承ください。

【期日】 2022(令和4)年1月10日(月)~15日(土)

※1月10日は13:00から1回のみとなります。

【時間】 ・1回目 12時~ ・2回目 13時~

【場所】 鴻之間(国宝)

【懇志】 1万円以上

【受付】 2021(令和3)年12月22日(水)より
参拝教化部(龍虎殿)にてお申込み
＜TEL:075-371-5181(代) FAX:075-371-7601＞

